資治通鑑 第 150 巻

令和 4 年 12 月 10 日

【梁紀六】　起閼逢執徐，盡旃蒙大荒落，凡二年。

■梁、●北魏、続国訳漢文大成．経子史部 第 9 巻 042p

高祖武皇帝六普通五年（甲辰，５２４年）

【六鎮の乱の波及】

●春，正月，辛丑（37-18+1=２０日），**魏主**は南郊に祀す。（この年、閏二月有り）

●［六鎮の乱の討伐軍派遣］三月，魏は臨淮王の**彧**を以て都督北討諸軍事とし，**破六韓拔陵**（沃野鎮に反す、前巻にあり）を討たしむ。

●［敕勒の胡琛の叛乱］夏，四月，高平鎮の民の**赫連恩**等は反し，敕勒の酋長の**胡琛**を推して高平王と為し，高平鎮を攻め以て**拔陵**に應ず。魏將の**盧祖遷**は撃ちて之を破り，**琛**は北に走る。

●［武川鎮・懷朔鎮の陥落］**衛可孤**は懷朔鎮を攻めること年を經て，外援は至らず，**楊鈞**は**賀拔勝**をして臨淮王の**彧**に詣りて急を告げ使む。**勝**は敢死の少年十餘騎を募りて，夜隙を伺い圍みを潰やして出で，賊騎は追いて之に及び，**勝**は曰く、

「我は**賀拔破胡**（賀拔勝の字）也。」

賊は敢えて逼らず。**勝**は**彧**に雲中にて見え，之に說いて曰く、

「懷朔は圍まれ，旦夕に淪陥せんとす，**大王**は今兵を頓して進まず。懷朔が若し陥ちれば，則ち武川（武川鎮は綏遠特別区域綏遠道武川県、現・フフホト市武川県）も亦た危うし，賊之鋭氣は百倍し，（9-043p）**良**（張良）、**平**（陳平）有りと雖も，**大王**の計を為す能わず矣。」

彧は為に師を出すを許し，**勝**は還り，復た圍みを突き而して入る。**鈞**は復た**勝**を遣わして出でて武川を覘わしめ，武川は已に陥つ。**勝**は馳せて還るも，懷朔も亦た潰え，**勝**の父子は俱に**可孤**の虜する所となる。

●［魏主は李崇の再派遣を画策］五月，臨淮王の**彧**は**破六韓拔陵**と五原（五原県、現・バヤンノール市五原県）に戰い，兵は敗れ，**彧**は坐して官爵を削除せらる。安北將軍の隴西の**李叔仁**も又た白道（武川鎮の北に白道谷有り、谷口に白道城有り、その北に高阪有りて白道嶺という）に敗れ，賊の勢は日々に盛んなり。**魏主**は丞相、令、僕、尚書、侍中、黃門を顯陽殿に引き，之に問いて曰く、

「今寇は恆、朔を連ね，逼りて金陵（北魏が雲中にある時代の諸帝の陵）に近く，計（はかりごと）は將に安くに出んや？」

吏部尚書の**元修義**は重臣を遣わして軍を督して恆、朔に鎮し以て寇を捍がんと請う。**帝**は曰く、

「去る歲に**阿那瑰**は叛亂し，**李崇**を遣わして北征せしむ，**崇**は上表して鎮を改めて州と為すを求め，**朕**は舊章の革め難きを以て，其の請いに從わず。**崇**の此の表を尋ねるに，鎮戶の非翼之心を開き，今日之患い有るを致す。但だ既往なりて追い難し，聊（いささ）か復た略論する耳。然れども**崇**は貴戚の重望なりて，器識は英敏なり，意うに還りて（續は欠如）**崇**を遣わして行かしめんと欲す，何如や？」

僕射の**蕭寶寅**等は皆な曰く、

「此くの如きは，實に群望に合うべし。」

崇は曰く、

「臣は六鎮の遐僻にして，寇戎に密邇するを以て，以て彼の心を慰悅せんと欲す，豈に敢えて之を導きて亂を為さんや！臣の罪は當に死に就くべし，**陛下**は之を赦す。今更に臣を遣わして北に行かしむ，正に是れ恩に報じ過ちを改める之秋なり。但だ臣の年は七十なり，之に加えて疲れ病いし，軍旅に堪えず，願わ

くは更に賢材を擇ぶべし。」

帝は許さず。**修義**は，**天賜**之子也。

●臣**光**は曰く、

「**李崇**之表は，乃ち禍を未萌に銷し，勝ちを無形に制す所以なり。魏の**肅宗**は既に用いる能わず，亂生ずる之日（続は後）に及び，曾て愧謝之言無く，乃ち更に以て**崇**の罪と為す。彼（続は欠如）の不明之君は，烏は與に謀る可けん哉！《詩》に云わく、「聽言には則ち對え，誦言は醉うが如し，其の良を用いるに匪ず，覆って俾我をして悖ら俾む。」其れ是之謂い矣。」

●壬申（8+60−46+1=２３日），**崇**に使持節、開府儀同三司、北討大都督を加え，撫軍將軍の**崔暹**、鎮軍將軍の廣陽王の**深**（元深 485～526，本名元淵，字智远，河南洛陽人，鮮卑族。北魏宗室大臣，太武帝拓跋濤の曾孫）に命じて皆な**崇**の節度を受けしむ。**深**は，**嘉**之子也。

■六月，豫州刺史の**裴邃**を以て征討諸軍事を督さしめ，以て魏を伐たしむ。

●［秦州の莫折大提の乱］魏は**破六韓拔陵**之反するより，二夏（夏州と東夏州、夏州は統万に治し、化成・闡熙・金明・代名郡ほ領す、東夏州は偏城・朔方・定陽・上郡を領す）、豳（皇興二年に華州を北地に置き、太和 11 年に班州と改め、14 年に豳州とする。北地・趙興・襄樂郡を領す）、涼（涼州は武安・臨末・建昌・番和・泉城・武興・武威・昌末・古河市径・涼濘郡）の寇盜は蜂起す。秦州刺史の**李彦**は，政刑は殘虐にして（9−044p），在下は皆な怨む。是の月，城内の**薛珍**等は黨を聚めて州門に突入し，**彦**を擒にし，之を殺し，其の黨の**莫折大提**を推して帥と為し，**大提**は自ら秦王と稱す。魏は雍州刺史の**元志**を遣わして之を討たしむ。

●［南秦州も大提に付き、子の念生は天子自称］初め，南秦州の豪右の**楊松柏**兄弟は，數々寇盜を為し，刺史の博陵の**崔游**は之を誘いて降ら使め，引いて主簿と為し，接するに辭色を以てし，說いて群氐を下ら使む，既に而して宴會に因りて盡く收めて之を斬る。是に由り所部は猜懼せざるは莫し。**游**は**李彦**の死するを聞き，自ら安ぜざるを知り，逃げ去らんと欲し，未だ果たさず。城民の**張長命**、**韓祖香**、**孫掩**等は**游**を攻め，之を殺し，城を以て**大提**に應じる。**大提**は其の黨の**卜胡**を遣わして高平を襲わしめ，之に克ち，鎮將の**赫連略**、行台の**高元榮**を殺す。**大提**は尋いで卒し，子の**念生**は自ら**天子**を稱し，百官を置き，改元して天建とす。

●丁酉（33−16+1=１８日），魏は大赦す。

●［莫折念生討伐軍派遣］秋，七月，甲寅（50−45+1=６日），魏は吏部尚書の**元修義**を遣わし尚書僕射を兼ね，西道の行台と為し，諸將を帥いて**莫折念生**を討たしむ。

●［崔暹は破六韓拔陵に敗退］（魏の）**崔暹**は**李崇**の節度に違い，**破六韓拔陵**と白道に戰い，大いに敗れ，單騎にして走り還る。**拔陵**は力を並せて**崇**を攻め，**崇**は力戰して御ぐ能わず，引いて雲中に還り，之と相い持つ。

●［辺境と京師の同族の格差］廣陽（廣相×）王の**深**は上言す、

「先朝は平城に都し，北邊を以て重しと為し，盛んに親賢を簡び，麾を擁し鎮（鎮将）と作し，配するに高門（魏の王室と同じく代北に興る者、大姓九十九）の子弟を以てし，死を以て防遏し，唯だ仕宦（仕官）を廢せざるに非ず，乃ち更に獨り復除を得，當時の人物は，忻慕（喜び慕う）して之を為す。太和中に，僕射の**李沖**は事を用い，涼州の土人は悉く廝役を免ぜられる（李寶は敦煌より魏に入朝し、子冲に至りて親貴にして、其の鄉人に厚し。故に涼土の人は悉く廝役を免ぜられる）。帝鄉の舊門は，仍ほ邊戍を防ぎ，罪を當世に得るに非ざるより，肯て之と伍を為す莫し。本鎮は驅使し，但だ虞候、白直（月給無し）と為し，一生推遷して，軍主に過ぎず。然るに

其の同族の京師に留まる者は上品の通官を得，鎮に在る者は即ち清途の隔てる所と為り，或は多く逃逸す。乃ち邊兵之格を峻にし，鎮人は浮游して外に在るを聽さず，是に於いて少年は師に從うを得ず，長者は宦に游ぶを得ず，獨り人に匪(あら)ずと為し，之を言って流涕す！鼎を伊、洛に定める（洛陽遷都）より，邊任は益々輕く，唯だ底滯の凡才のみ，乃ち出でて鎮將と為り，轉た相い模習し，專ら聚斂を事とす。或は諸方の奸吏，犯罪して邊に配せられ，之が指蹤（発従指示、指揮謀画）を為す，政は賄を以て立ち，邊人は切齒せざるは無し。**阿那瑰**が恩に背きて縱(ほしいまま)に掠する（前巻前年にあり、魏書太武五王傳には「阿那瑰が恩に背き縱掠して竊に奔るに及び、師に命じてこれを追わしむ」云々に作る。奔命を連用するは妥当ならずと為す）に及び，奔命を發して之を追い，十五萬の衆は沙漠を度り，日ならず而して還る。邊人は此の援師（師速やかにして疾し。邊人は其の敵を盡す能わずして反る）を見，遂に自ら意に中國を輕んじる。尚書令の臣の**崇**が鎮を改めて州と為さんと求めるは，抑々(そもそも)亦た先覺なり，**(9-045p)** 朝廷は未だ許さず。而るに高闕（陰山の西、蒙古鄂爾多斯右翼、黄河の外膳格里湖の東北、現・オルドス市）の戍主は下を御するに和を失い，**拔陵**は之を殺し，遂に相い帥いて亂を為し，城を攻め地を掠め，過ぎる所は夷滅し，王師は屢々北(に)げ，賊黨は日々盛んなり。此の段之舉は，銷平を指望す。而るに**崔暹**は只輪（続は隻輪）は返さず（徹底失敗、連戰車の一只輪子は都て未だ返回す能わず，比喩全軍覆没），臣**崇**は臣と逡巡して路を復(かえ)り（還りて旧路に即く），相い與に還りて雲中に次し，將士之情は解體せざるは莫し。今日慮る所は，止だ西北に非ず，將に諸鎮も尋ぎて亦た此くの如くとならんを恐れ，天下之事は，何ぞ量る可きこと易からんや！」

書は奏すも，省せず。

●［崔暹は元義に賂して免除］詔して、**崔暹**を征して廷尉に系(つな)ぐ。**暹**は女妓、田園を以て**元義**に賂し，卒に坐せざるを得る。

【魏に雪崩を打つ叛乱と討伐、乗じる梁】

●［魏子建の慰撫策で叛乱無し］丁丑（13+60-45+1=２９日），**莫折念生**は其の都督の**楊伯年**等を遣わして仇鳩（甘粛省渭川道徽県の西、現・隴南市徽県）、河池（甘粛省渭川道徽県の西、現・隴南市徽県）の二戍を攻め，東益州刺史の**魏子建**は將軍の**伊祥**等を遣わして擊ちて之を破り，斬首は千餘級。東益州（天監五年に魏は武興に克ち、楊紹先の國を滅ぼし、東益州を置く）は本の氐王の**楊紹先**之國なり，將佐は皆な以(おも)えらく城民は勁勇にして，二秦の反する者は皆な其の族類なり，先ず其の器械を收めんと請う。**子建**は曰く、

「城民は數々行陣を經たり，之を撫すれば以て用を為すに足る，之を急にすれば則ち腹背は患いを為さん。」

乃ち悉く城民を召し，之を慰諭し，既に而して漸(ようや)く其の父兄の子弟を分けて外に諸郡に戍せしめ，內外相い顧み，卒に叛く者無し。**子建**は，**蘭根**之族兄也。

●［於菩提は涼州刺史の宋穎を執る］魏の涼州の幢帥の**於菩提**等は刺史の**宋穎**を執り，州に據りて反す。

■八月，庚寅（26-15+1=１２日），徐州刺史の**成景俊**は魏の童城（下邳の僮県の城、江蘇省徐海道邳県、現・宿遷市沭陽県）を拔く。

●［李苗の策略］魏の員外散騎侍郎の**李苗**は上書して曰く、

「凡そ食少く兵は精(くわ)しければ，速戰に利あり。糧多く卒衆ならば，事は宜しく持久すべし。今隴賊は猖狂なるも，素より蓄え有るに非ず，兩城（天水・高平）に據ると雖も，本は德義無し。其の勢は疾く攻めるに在り，日々降納有らん，遲ければ則ち人情は離れ沮し，坐して崩潰を待つ。夫れ飆のごとく至り風のごとく擧がり，逆う者は萬一之功を求めん。壁を高くし壘を深くし，王師は全制之策有り。但だ天下は久しく

泰く，人は兵を曉らず，利に奔るには相い待たず，難を逃れるには相い顧みず，將には法令無く，士は教習するに非ず，長久之計を思わず，各々敵を輕んじる之心有り。如し隴東をして守られず，汧軍（元志の軍、汧は隴阪の東にあり）をして敗散せ令めれば，則ち兩秦（莫折念生と張長命など）は遂に強く，三輔は危弱にして，國之右臂は斯に於いて廢さん矣。宜しく大將を勒（一本に動）し壁を堅くして戰う勿からしむべし，別に偏裨に命じて精兵數千を帥いて麥積崖（甘肅省渭川道天水県の東百里の麦積山石窟か、現・天水市麦積区）に出でて以て其の後を襲わしめば，則ち汧、岐（続は隴）之下，群妖は自ら散ぜん。」

●［元志は破れ岐州に保す］魏は**苗**を以て統軍と為し，別將の**淳於誕**と俱に梁、益に出でしめ，**魏子建**に隸す。未だ至らずして，**莫折念生**は其の弟の高陽王の**天生**を遣わして、**(9-046p)** 兵を將いて隴を下らしむ。甲午（30-15+1=１６日），都督の**元志**は與に隴口（隴坻の口）に於いて戰い，**志**の兵は敗れ，衆を棄てて東して岐州（魏の岐州は雍城に治す、陝西省關中道鳳翔県、現・宝鶏市鳳翔区）に保す。

●［魏主の六鎮懷柔策は手遅れ］東西部の敕勒は皆な魏に叛し，**破六韓拔陵**に附き，**魏主**は始めて**李崇**及び廣陽王の**深**之言を思う。丙申（32-15+1=１８日），下詔す、

「諸州鎮の軍貫（軍籍）の罪有りて配隸する者に非ざるは，皆な免じて民と為すべし。」

鎮を改めて州と為し，懷朔鎮を以て朔州と為し，更に朔州を命けて白雲州という。兼黄門侍郎の**酈道元**を遣わして大使と為し，六鎮を撫慰せしむ。時に六鎮は已に盡く叛し，**道元**は行くを果たさず。

【爾朱榮は頭角を現す】

●［各地叛乱、秀容の爾朱榮登場］是より先，代人の洛に遷る者は，多く選部の抑える所と為り，仕進するを得ず。六鎮の叛に及び，**元叉**（元乂ともする）は乃ち代より來たる寒人（続は欠如）を用いて傳詔と為し以て之を尉悦す。廷尉評（漢の廷尉平、魏晉以来評とする）の代人の**山偉**は奏記し，叉の德美を稱し，**叉**は**偉**を擢（擢×）んでて尚書二千石郎（後漢では尚書に二千石有り、曹魏は二千石郎を置く）と為す。秀容（魏は秀容護軍を立てて胡人を統べる、その治所は汾水を去る 60 里。永興二年に秀容郡を置き、肆州に属す。山西省冀寧道嵐県の南、現・呂梁市嵐県）人の**乞伏莫於**は衆を聚めて郡を攻め，太守を殺す。丁酉（33-15+1=１９日），南秀容の牧子の**萬於乞真**は反し，太僕卿の**陸延**を殺し，秀容の酋長の**爾朱榮**は討ちて之を平ぐ。**榮**は，**羽健**（110 巻晉の安帝隆安二年にあり）之玄孫也。其の祖の**代勤**は，嘗て獵に出で，部民は虎を射い，誤ちて其の髀を中つ，**代勤**は箭を抜き，復た推問せず，所部は感悦せざるもの莫し。官は肆州刺史に至り，爵は梁（染×）郡公を賜り，年九十餘に而して卒す。子の**新興**は立つ。**(9-047p) 新興**の時，畜牧は尤も蕃息し，牛羊駝馬は，色別（区別）して群を為し，川谷に瀰漫し，勝げて數える可からず。魏は師を出す毎に，**新興**は輒ち馬及び資糧を獻じ以て軍を助け，**高祖**は之を嘉す。**新興**は老い，爵を子の**榮**に傳えるを請い，魏朝は之を許す。**榮**は神機明決にして，衆を御するに嚴整なり。時に四方に兵起き，**榮**は陰に大志有り，其の畜牧資財を散じて，驍勇を招合し，豪傑にし，是に於いて**侯景**、**司馬子如**、**賈顯度**及び五原の**段榮**、太安（魏は懐朔鎮に朔州を置き、併せて太安郡を置く）の**寶泰**は皆な往きて之に依る。**顯度**は，**顯智**之兄也。

●［魏の盤頭郡の攻防］戊戌（34-15+1=２０日），**莫折念生**は都督の**寶雙**を遣わして魏の盤頭郡（東益州に属す、陝西省漢中道略陽県の西北、現・漢中市）を攻め，東益州刺史の**魏子建**は將軍の**寶念祖**を遣わして擊ちて之を破る。

■●［睢陵・壽陽・淮陽の魏と梁の攻防戦］九月，戊申（44-44+1=１日），**成景俊**は魏の睢陵を抜く。戊午（54-44+1=１１日），北兗州（梁の北兗州は淮陰に治す）刺史の**趙景悦**は荊山（安徽省淮泗道懐遠県西南、當塗山と淮を挟んで相対す、現・蚌埠市懐遠県荊山鎮）を圍む。**裴邃**は騎三千を帥いて壽陽を襲い，壬戌（58-44+1=１５日）夜，

關を斬り而して入り，其の外郭に克つ。魏の揚州刺史の**長孫稚**は之を御ぎ，一日に九戰し，後軍の**蔡秀成**は道を失いて至らず，**邃**は兵を引いて還る。別將（梁の遣わす所、裴邃の所部に非ず）は魏の淮陽を擊ち，魏は行台の**酈道元**、都督の河間王の**琛**をして壽陽を救わ使め，安樂王の**鑒**は淮陽を救う。**鑒**は，**詮**（安樂王詮、146巻天監五年にあり）之子也。

●［蕭寶寅は莫折念生を討つ］魏の西道行台の**元修義**は風疾を得，軍を治す能わず。壬申（8+60−44+1=２５日），魏は尚書左僕射の齊王の**蕭寶寅**を以て（9−047p）西道行台大都督と為し，諸將を帥いて**莫折念生**を討たしむ。

●［宋穎は吐谷渾王の伏連籌の救援で涼州刺史復帰］**宋穎**は密に救いを吐谷渾王の**伏連籌**に求め，**伏連籌**は自ら將いて涼州を救い，**於菩提**は城を棄てて走り，追いて之を斬る。城民の**趙**（越×）**天安**等は復た**宋穎**を推して刺史と為す。

●■［梁郡の攻勢］河間王の**琛**の軍は西硤石に至り，渦陽の圍みを解き，荊山戍を復す。青、冀二州刺史の**王神念**は與に戰い，**琛**の敗れる所と為る。冬，十月，戊寅（14−14+1=１日），**裴邃**、**元樹**は魏の建陵（県、江蘇省徐海道沭陽県の建陵山下、現・宿遷市沭陽県）城を攻め，之に克つ。辛巳（17−14+1=４日），曲木（曲沭に作るべし、江蘇省徐海道沭陽県、現・宿遷市沭陽県）を抜き，掃虜將軍の**彭寶孫**は琅邪を抜く。

●［營州の叛乱］魏の營州（444年太平真君5年北燕遺領に営州を設置、州治は龍城県）城民の**劉安定**、**就德興**は刺史（史×）の**李仲遵**を執り，城に據りて反す。城民の**王惡兒**は安定を斬り以て降る。**德興**は東に走り，燕王を自稱す。

●［胡琛の侵攻］**胡琛**は其の將の**宿勤明達**を遣わして豳、夏、北華（魏の高祖太和15年に東秦州を杏城に置く。後に北華州を置く）の三州を寇（寂×）さしめ，壬午（18−14+1=５日），魏は都督北海王の**顥**を遣わして諸將を帥いて之を討たしむ。**顥**は，**詳**（145巻天監三年に罪を得る）之子也。

■●［梁は大攻勢で諸城を抜く］甲申（20−14+1=７日），**彭寶孫**は檀丘を抜く。辛卯（27−14+1=１４日），**裴邃**は狄城（安徽省淮泗道懐遠県、現・蚌埠市懐遠県）を抜く。丙申（32−18+1=１５日）。又た甓城を抜き，進みて黎漿に屯す。壬寅（38−14+1=２５日），魏の東海太守の**韋敬欣**は司吾城（漢の東海郡司吾県の故城、江蘇省徐海道宿遷県北60里、現・宿遷市宿豫区）を以て降る。定遠將軍の**曹世宗**は曲陽（安徽省淮泗道鳳臺県、現・淮南市鳳台県）を抜く。甲辰(40−14+1=２７日），又た秦墟（曲陽の北）を抜き，魏の守將の多くは城を棄てて走る。

●［盧同は營州討伐］魏は黄門侍郎の**盧同**をして節を持して營州に詣りて慰勞せ使め，**就德興**は降り而して復た反す。詔して**同**を以て幽州刺史兼尚書行台と為し，同は屢々**德興**の敗る所と為り而して還る。

【源子雍父子の奮闘】

●［源子雍父子は二夏州を全くす］魏の朔方胡は反し，夏州（統萬に治す）刺史の**源子雍**を圍み，城中の食は盡き，馬皮を煮て而して之を食らい，衆に貳心無し。**子雍**は自ら出でて糧を求めんと欲し，其の子の**延伯**を留めて統萬を守らしめ，將佐は皆な曰く、

「今四方は離叛し，糧は盡き援は絕え，父子俱に去るに若かず。」

子雍は泣いて曰く、

「吾は世々國恩を荷ない，當に命を此の城に畢(お)わるべし。但だ食の守る可き無し，故に東州（東夏州）に往き，諸君の為に數月之食を營まんと欲す，若し幸に而して之を得れば，保全するは必ずなり矣。」

乃ち羸弱を帥いて東夏州に詣りて糧を運ばんとし，**延伯**は將佐と哭して而して之を送る。**子雍**は行くこと數日，胡帥の**曹阿各拔**は邀擊して，之を擒とす。**子雍**は潛に人を遣わして書を繼(もたら)し，城中に敕して、

「努力して固く守るべし。」
闔城は憂懼し，**延伯**は之を諭して曰く、
「吾が父の吉凶は知る可からず，方寸焦爛す。但だ命を奉じて城を守り，為にする所の者は重く，敢えて私を以て公を害さず。諸君は幸いに此の心を得るべし！」
是に於いて衆は其の義に感じ，奮勵せざるは莫し。**子雍**は擒えられると雖も，胡人は常に民の禮を以て之に事え，**子雍**は為に禍福を陳べ，**阿各拔**に降るを勸める。會々**阿各拔**は卒し，其の弟の**桑生**は竟に其の衆を帥いて**子雍**に隨いて降る。**子雍**は行台の北海王の**顥**に見え，具に諸賊の滅ぼす可き之狀を陳べ，**顥**は**子雍**に兵を給し，其れをして先驅せ令む。**(9-048p)** 時に東夏州の闔境は皆な反し，所在に屯結す，**子雍**は轉斗し而して前み，九旬之中に，凡そ數十戰し，遂に東夏州を平らげ，稅粟を徵し以て統萬に饋り，二夏は是に由りて全くすを獲たり。**子雍**は，**懷**之子也。
●［**費穆を朔州刺史と為す**］魏の廣陽王の**深**は上言す、
「今六鎮は盡く叛き，高車の二部（高車は阿伏至羅・斛窮奇より二部に分かれ、東西の敕勒なり）も亦た之と同じ，此の疲兵を以て之を擊てば，必ず勝つ理無し。精兵を選練し恆州の諸要（要衝の地）を守り，更に後圖と為すに若かず。」
遂に**李崇**と兵を引いて平城に還る。**崇**は諸將に謂って曰く、
「雲中（魏の雲中は漢の盛樂県、唐の振武軍節度使の治所は雲山の陽なり）者，白道之沖（続は衝），賊之咽喉なり，若し此の地全からざれば，則ち並、肆危からん矣。當に一人を留めて之を鎮せしむべし，誰か可なる者や？」
衆は**費穆**を舉げ，**崇**は乃ち**穆**を請いて（奏請）朔州（時に雲中は已に改めて雲州と為す、朔は當に雲に作るべし）刺史と為す。
●［**宇文肱は豪傑を糾合**］**賀拔度拔**父子及び武川の**宇文肱**（宇文泰の父）は鄉里の豪傑を糾合し，共に**衛可孤**を襲い，之を殺す。**度拔**は尋いで鐵勒と戰いて死す。**肱**は，**逸豆歸**（晉の康帝建元二年に慕容皝の滅ぼされる）之玄孫也。
●［**廣陽王の深は李崇と対立**］**李崇**は國子博士の**祖瑩**を引いて長史と為す。廣陽王の**深**は奏す、
「**瑩**は詐りて首級を增し，軍資を盜沒す」
と，**瑩**は坐して除名せられ，**崇**も亦た官を免じ爵を削り征還せらる。**深**は專ら軍政を總べる。
●［**莫折天生は歧州に進攻**］**莫折天生**は魏の歧州に進攻し，十一月，戊申（44-43+1=２日），之を陷とし，都督の**元志**及び刺史の**裴芬之**を執り，**莫折念生**に送り，之を殺す。**念生**は又た**卜胡**等をして涇州を寇さ使め，光祿大夫の**薛懋**を平涼（魏は平涼郡を置き鶉陰県に治す、甘肅省涇原道平涼県、現・平涼市崆峒区）の東に敗る。**懋**は，**安都**（宋の泰始の始めに魏に降る）之孫也。
■●［**梁は東莞を抜く**］丙辰（52-43+1=１０日），**彭寶孫**は魏の東莞を抜く。壬戌（58-43+1=１６日），**裴邃**は壽陽之安城を攻め，丙寅（2+60-43+1=２０日），馬頭、安城は皆な降る。
●高平人は攻めて**卜胡**を殺し，共に**胡琛**を迎える。
●［**楊昱は雍州を救援**］魏は黃門侍郎の**楊昱**を以て侍中を兼ね，節を持して北海王の**顥**の軍を監し，以て豳州を救わしむ，豳州の圍は解く。蜀の賊（蜀人の關中に移る者、魏乱れるに乘じ、起こりて盜を為す）の**張映龍**、**姜神達**は雍州を攻める，雍州刺史の**元修義**は援を請い，一日一夜，書移九通。都督の**李叔仁**は遲疑して赴かず，**昱**は曰く、
「長安は，關中の基本なり，若し長安守らざれば，大軍は自然に瓦散せん，此に留まること何の益あらん？」

遂に**叔仁**と進みて之を撃ち，**神達**を斬り，餘黨は散じ走る。

●十二月，戊寅（14-13+1=２日），魏の荊山は降る。

●［再度の莫折念生討伐軍］壬辰（28-13+1=１６日），魏は京兆王の**繼**を以て太師、大將軍と為し，西道諸軍を都督し以て**莫折念生**を討たしむ。

■●［梁の李國興は義陽を攻める］乙巳（41-13+1=２９日?前後する、乙未なら１９日），武勇將軍の**李國興**は魏の平靜關（義陽の三關、河南省汝陽道信陽県、現・信陽市）を攻める。辛丑（37-13+1=２５日），信威長史の**楊乾**は武陽關（義陽の三關）を攻める。壬寅（38-13+1=１６日），峴關（黄峴関、義陽の三關）を攻める。**(9-049p)** 皆な之に克つ。**國興**は進みて郢州（義陽に治す）を圍み，魏の郢州刺史の**裴詢**は蠻酋の西郢州（義陽の西の蠻中にあり）刺史の**田樸特**と，相い表裡して以て之を拒む。城を圍むこと百日に近し，魏の援軍は至り，**國興**は引いて還る。**詢**は，**駿**（裴駿は 124 巻宋の文帝元嘉 22 年にあり）之孫也。

●魏の汾州（魏の孝文帝太和 12 年に置く、蒲子に治す、西河・吐京・五城・定陽の凡そ四郡を領す、蒲子は山西省河東道隰県、現・臨汾市隰県）の諸胡は反す。章武王の**融**を以て大都督と為し，兵を將いて之を討たしむ。

●［魏子建は諸氐を招諭］魏の**魏子建**は南秦の諸氐を招き諭し，稍稍降附し，遂に六郡十二戍を復し，賊帥の**韓祖香**を斬る。魏は**子建**を以て尚書を兼ね，行台と為し，刺史（元々東益州刺史）は故の如し，梁（南鄭）、巴（漢の巴西郡）、二益（益州を晉壽郡、東益州を武興郡）、二秦（秦州を上邽、南秦州を仇池）の諸州は皆な節度を受ける。

●**莫折念生**は兵を遣わして涼州を攻め，城民の**趙天安**は復た刺史を執り以て之に應じる。

■［梁の朱異は多才で朝政を執る］是の歲，侍中、太子詹事の**周捨**は事に坐して免ぜられ，散騎常侍の錢唐の**朱異**は代わりて機密を掌り，軍旅の謀議，方鎮の改易，朝儀の詔敕は，皆な之を典る。**異**は文義を好み，藝能多く，精力敏贍なり，**上**は是を以て之に任ず。

高祖武皇帝六普通六年（乙巳，５２５年）

■春，正月，丙午（42-42+1=１日），雍州刺史の晉安王の**綱**は安北長史の**柳渾**を遣わして魏の南鄉郡を破る。司馬の**董當門**は魏の晉城を破り，庚戌（46-42+1=５日），又た馬圈、雕陽の二城を破る。

■辛亥（47-42+1=６日），**上**は南郊に祀り，大赦す。

【元法僧の亡命】

●■［魏の徐州刺史の元法僧は帝を称し、ついで梁に降る］魏の徐州刺史の**元法僧**は，素より**元叉**に附き，**叉**が驕恣なるを見，禍が己に及ぶを恐れ，遂に謀反す。魏は中書舍人の**張文伯**を遣わして彭城に至り，**法僧**は謂って曰く、

「吾は汝と與に危きを去り、安きに就かんと欲す，能く我に從わん乎？」

文伯は曰く、

「我は寧ろ死して文陵（孝文帝の陵）の松柏を見ん，安んぞ能く忠義を去り而して叛逆に從わん乎！」

法僧は之を殺す。庚申（56-42+1=１５日），**法僧**は行台の**高諒**を殺し，**帝**を稱し，改元して天啟とし，諸子を立てて王と為す。魏は兵を發して之を撃ち，**法僧**は乃ち其の子の**景仲**を遣わして來降す。

●［元顯和は元法僧に籠絡されず］安東長史の**元顯和**は，**麗**（146 巻天監五年にあり）之子也，舉兵して**法僧**と戰う。**法僧**は之を擒とし，其の手を執り，命じて其（続は欠如）の共に坐せしむ，**顯和**は肯ぜず，曰く、

「翁と皆な皇家に出る，一朝地を以て外叛すれば，獨り良史を畏れざる乎！」（元法僧は陽平王熙の曾孫なり。熙は道武帝の子なり。元麗は小新成の孫、小新成は景穆の子、顯利は麗の子なり。族屬長幼の次を以て法僧を呼びて翁と呼ぶ）

法僧は猶ほ之を慰諭せんと欲す，**顯和**は曰く、

「我は寧ろ死して忠鬼（魏書景穆十二王傳には悪鬼に作る）と為るとも，生きて叛臣と為る能わず！」

乃ち之を殺す。

■［梁は元法僧を歓迎］**上**は散騎常侍の**朱異**をして**法僧**に使いせ使め，宣城太守の**元略**（前巻四年に来奔）を以て大都督と為し，將軍の義興の**陳慶之**、**胡龍牙**、**成景俊**等と兵を將いて應接せしむ。(9-050p)

●［蕭寶寅の小心］**莫折天生**は黑水（烏蘭木倫河、顎爾多斯右翼中旗の西南にあり）に軍し，兵勢は甚だ盛んなり。魏は岐州刺史の**崔延伯**を以て征西將軍、西道都督と為し，衆五萬を帥いて之を討つ。**延伯**は行台の**蕭寶寅**と與に馬嵬に軍す。**延伯**は素より驍勇にして，**寶寅**は之を趣（うなが）して戰わ使め，**延伯**は曰く、

「明晨は公の為に賊の勇怯を參（驗）せん。」

乃ち精兵數千を選びて西に黑水を渡り，陳を整えて進みて**天生**の營に向かう。**寶寅**は水東に軍し，遙かに繼援を為す。**延伯**は直ちに**天生**の營下に抵り，威を揚げて之を脅し，徐に兵を引いて還る。**天生**は**延伯**の衆の少きを見，營を開きて爭いて之を逐い，其の衆は多きこと**延伯**に十倍す，**延伯**に水次に蹙（せま）り，**寶寅**は之を望んで色を失う。**延伯**は自ら後殿と為り，之と戰わず，其の衆をして先に渡ら使め，部伍は嚴整たり，**天生**の兵は敢えて擊たず。須臾にして，渡り畢（おわ）（華×）り，**延伯**は徐に渡り，**天生**之衆も亦た引いて還る。

寶寅は喜びて曰く

「**崔君**之勇は，關（関羽）、張（張飛）に如かず。」

延伯は曰く、

「此の賊は老奴の敵に非ざる也，明公は但だ安坐し，老奴が之を破るを觀よ。」

癸亥（59-42+1=１８日），**延伯**は兵を勒して出で，**寶寅**は軍を舉げて其の後に繼ぐ。**天生**は衆を悉くして逆え戰い，**延伯**は身は士卒に先だち，其の前鋒を陷とし，將士は鋭を盡くして競い進み，大いに之を破り，俘斬は十餘萬なり，奔るを追いて小隴（大隴山は甘肅省渭川道清水県の東北、小隴山は陝西省關中道隴県にあり）に至り，岐、雍及び隴の東は皆な平らぐ。將士は稽留して采掠し，**天生**は遂に隴道を塞ぎ，是に由りて諸軍は進む能わず。**寶寅**は宛川（扶風郡の陳倉県、陝西省關中道、現・宝鶏市陳倉区）を破り，其の民を俘（とりこ）にして以て奴婢と為し，美女十人を以て岐州刺史の**魏蘭根**に賞し，**蘭根**は辭して曰く、

「此の縣は強寇に介し，自ら立つ能わず，故に附從して以て死を救う。官軍之至るや，宜しく矜（あらわ）み而して之を撫し，奈何ぞ賊を助けて虐を為し，翦りて以て賤役と為す乎！」

悉く其の父兄を求め而して之を歸す。

【魏と梁の国境紛争激化】

■［裴邃は河間王の琛を撃破］己巳（5+60-42+1=２４日），**裴邃**は魏の新蔡郡を抜き，侍中、領軍將軍の西昌侯の**淵藻**に詔して衆を將いて前驅せしめ，南兗州刺史の豫章の**王綜**をして諸將と繼いで進ましむ。癸酉（9+60-42+1=２８日），**裴邃**は鄭城（水經注に潁水は愼県の故城の南を過ぎて東南に流れ、蜩螗郭の東を経て、俗にこれを鄭城という、又東南して淮水に入る）を抜き，汝、潁之間は，所在は響應す。魏の河間王の**琛**等は**邃**の威名を憚り，城父（安徽省淮泗道亳県、現・亳州市譙城区）に軍し，累月進まず，魏朝は廷尉少卿の**崔孝芬**を遣わして節を持し、齎庫刀（千牛刀）を繼し以て之を趣す（刀をもって進むを促す）。**孝芬**は，**挺**之子也。**琛**は壽陽に至り，兵

を出して決戦せんと欲す。**長孫稚**は以為く、
「久しく雨ふる，未だ出る可からず」
琛は聽かず，兵五萬を引いて城を出て**遼**を撃つ。**遼**は四甄（陣形名）を為り以て之を待ち，直閣將軍の**李祖憐**をして先ず挑戰し而して偽りて退か使む。**稚**、**琛**は衆を悉くして之を追い，四甄は競い發し，魏師は大敗し，斬首は萬餘級なり。**琛**は走りて城に入り，**稚**は兵を勒し而して殿（しんがり）し，遂に閉門して自ら固め，敢えて復た出ず。
■●［元法僧は魏の元鑒を撃破］魏の安樂王の**鑒**（元鑒、？- 527、文成帝の曾孫、同名武昌王元鑑）は兵を將いて**元法僧**を討ち，**元略**を彭城の南に撃つ。**略**は大敗し，**(9-051p)**數十騎と走りて城に入る。**鑒**は備えを設けず，**法僧**は出撃し，之を大破し，**鑒**は單騎にして奔り歸る。將軍の**王希聃**（たん）は魏の南陽平（宋は陽平郡を沛郡の南界に僑置。魏には南陽平郡とし、相州の古の陽平郡に別つ。後又郡を徙して彭城に寄治す）を抜き，太守の**薛曇尚**を執る。**曇尚**は，**虎子**（魏の孝文帝に事え、州鎮歷任）之子也。甲戌（10+60-42+1=２９日），**法僧**を以て司空と為し，始安郡公に封じる。
●■［魏は彭城を撃つ］魏は安豐王の**延明**（元延明 484-530、拓跋猛の子）を以て東道行台と為し，臨淮王の**彧**（元彧、～530、臨淮王元昌の子）を都督と為し，以て彭城を撃たしむ。
●魏は京兆王の**繼**を以て太尉と為す。
■二月，乙未（31-12+1=２０日），**趙景悅**は魏の龍亢（漢の沛に属す県、晉では譙國に属す。魏の太和 19 年に下蔡郡を置きこれに属す。安徽省淮泗道懐遠県西 70 里、現・蚌埠市懐遠県）を抜く。

●［太后は元叉の軍権を取る］初め，魏の**劉騰**は既に卒し（前巻四年），**胡太后**及び**魏主**の左右の防衛は微しく緩む。**元叉**も亦た自ら寛くし，時に出でて外に遊び，留連して返らず，其の親する所は諫めるも，**叉**は納れず**太后**は之を察知す。去る秋，**太后**は**帝**に對し、群臣に謂って曰く、
「今我が母子を隔絶し，往來を聽さず，復た何ぞ我を用いるを為さん！我は當に出家し，嵩山の閒居寺（147 巻天監八年に作る）に修道する耳。」
因りて自ら發（髪）を下ろさんと欲す。**帝**及び群臣は叩頭して泣涕し，殷勤に苦請し，**太后**は聲色は愈々厲（はげ）し。**帝**は乃ち嘉福殿に宿し，數日を積み，遂に**太后**と密に**叉**を黜けんと謀り。然るに**帝**は深く形跡を匿（かく）し，**太后**は忿恚し，顯陽に往來するを得んと欲する之言有り，皆な以て**叉**に告ぐ。又た**叉**に對して流涕し，**太后**は出家せんと欲し，憂怖之心は日々に數四有ることを敘す。**叉**は殊に以て疑いと為さず，乃ち**帝**に勸めて**太后**の欲する所に從わしむ。是に於いて**太后**は數々顯陽殿（帝は常在）に御し，二宮は復た禁礙無し。**叉**は**元法僧**を舉げて徐州と為し，**法僧**が反して，**太后**は數々以て言を為す，**叉**は深く愧悔す。丞相の高陽王の**雍**は，位は**叉**の上に居ると雖も，而して深く畏れて之を憚る。會々**太后**は**帝**と洛水に游び，**雍**は二宮を邀えて其の第に幸せしむ。日晏れ，**帝**は**太后**と**雍**の內室に至り，從者は皆な入るを得ず，遂に相い與に**叉**を圖る之計を定む。是に於いて**太后**は之に謂って曰く、
「**元郎**が若し朝廷に忠なりて，反心無ければ，何の故にか領軍を去り，餘官を以て輔政せざるや！」
叉は甚だ懼れ，冠を免ぎ領軍を解くを求める。乃ち**義**を以て驃騎大將軍、開府儀同三司、尚書令、侍中と為し、左右を領せしむ。
●戊戌（34-12+1=２３日），魏は大赦す。
●壬辰（28-12+1=１７日），**莫折念生**は都督の**楊鮓**等を遣わして仇池郡（東益州に属す、甘肅省渭川道成県西北、現・隴南市成県）を攻め，行台の**魏子建**は撃ちて之を破る。

■［蕭衍は北魏王族亡命者も優遇］三月，己酉（45-41+1=５日），**上**は白下城に幸し，六軍の頓所を履行（巡行）する。乙丑（1+60-41+1=２１日），豫章王の**綜**（502-531、蕭衍の次男）に命じて權に彭城に頓し，衆軍を總督し，並せて徐州の府事を攝せしむ。己巳（5+60-41+1=２５日），**元法僧**之子の**景隆**を以て衡州（湖南省衡陽道衡陽県、現・衡陽市衡陽県）刺史と為し，**景仲**を廣州刺史と為す。**上**は**法僧**及び**元略**を召して建康に還らしめ，**法僧**は彭城の吏民萬餘人を驅りて南に渡らしむ。**法僧**は建康に至り，**上**は寵待すること甚だ厚し。**元略**は其の人と為りを惡み，**(9-052p)** 之と言うに，未だ嘗て笑わず。

●魏は京光王の**繼**に詔して師を班(かえ)さしむ。（去年魏は繼をして西討せしむ。今將にその子の叉を誅せんと欲して、師をかえさ使む）

■●［**魏梁の梁州攻防戦**］北涼州刺史の**錫休儒**等は魏興より魏の梁州を侵し，直城（東梁州金城郡は直城県を領す、陝西省漢中道漢陰県、現・安康市漢陰県）を攻める。魏の梁州刺史の**傅豎眼**は其の子の**敬紹**を遣わして之を擊ち，**休儒**等は敗れて還る。

柔然●［**阿那瑰は魏の為に破六韓拔陵を討つ**］柔然王の**阿那瑰**は魏の為に**破六韓拔陵**を討ち，魏は**牒雲具仁**を遣わして雜物を繼して之を勞賜せしむ。**阿那瑰**は衆十萬を勒し，武川より西に沃野に向かい，屢々**拔陵**の兵を破る。**夏，四月**，**魏主**は復た中書舍人の**馮俊**を遣わして**阿那瑰**を勞賜せしむ。**阿那瑰**の部落は浸く強く，自ら**敕連頭兵豆伐**（總攬の意味）**可汗**と稱す。

【元叉の一党誅殺と太后の復活】

●［**元叉失脚、太后臨調摂政に復帰**］魏の**元叉**は兵權を解くと雖も，猶ほ內外を總任し，殊に自ら廢黜之理有るを意わず。**胡太后**の意は猶豫して未だ決せず，侍中の**穆紹**は**太后**に速かに之を去らんことを勸める。**紹**は，**亮**之子也。**潘嬪**は**魏主**に寵有り，宦官の**張景嵩**は之に說いて云わく

「**叉**は**嬪**を害せんと欲す。」

嬪は泣いて**帝**に訴えて曰く、

「**叉**は獨り妾を殺さんと欲するのみに非ず，又た將に**陛下**に利あらざらんとす。」

帝は之を信じ，**叉**が出でて宿すに因りて，**叉**の侍中を解く。明くる旦，**叉**は將に宮に入らんとし，門者は納れず。辛卯（27-11+1=１７日），**太后**は復た臨朝して攝政す，下詔して追いて**劉騰**の官爵を削り，**叉**の名を除いて民と為す。

●［**劉騰の墓を曝く**］清河國の郎中令の**韓子熙**は上書して清河王の**懌**の為に冤を訟え，**元叉**等を誅するを乞い，曰く、

「昔**趙高**（秦の始皇帝の宦官）は秦に柄（政権を執る）し，關東をして鼎沸せ令む。今**元叉**は魏を專らにし，四方をして雲擾せ使む。逆を開くの之端は，**宋維**に起こり，禍いを成す之末は，良(まこと)に**劉騰**に由り，宜しく首を梟し宮を洿にし，骸を斬り族を沉め，以て其の罪を明らかにすべし。」

太后は命じて**劉騰**之墓を發き，其の骨を露散し，家貲を籍沒し，盡く其の養子を殺さしむ。**子熙**を以て中書舍人と為す。**子熙**は，**麒麟**（135 卷齊の武帝永明元年にあり）之孫也。

●［**宋維に死を賜る**］初め，**宋維**の父の**弁**は常に曰く、

「**維**の性は疏險なり，必ず吾が家を敗らん！」

李崇、**郭祚**、**游肇**は亦た曰く、

「**伯緒**（宋維の字）凶疏なり，終に**宋氏**を傾けん。若し身を殺すを得るは，幸いなり矣！」（家を滅ぼすよりまし）

維は**元叉**に阿附し，超遷して洛州（魏初洛州を洛陽に、荊州を上洛に置く。太和に洛に遷都し司州とし、荊州を穰城に置き、

上洛の荊州を以て洛州とし、上洛・上庸・魏興・始平・萇和郡を領す）刺史に至り，是に至りて除名され，尋いで死を賜わる。

●［元叉の一党の侯剛・賈粲の誅殺］**叉**之領軍を解く也，**太后**は**叉**の黨與尚を強きを以て，未だ猝(にわ)かに制す可からず，乃ち**侯剛**を以て**叉**に代わりて領軍と為し以て其の意を安んず。尋いで**剛**を出して冀州刺史と為し，儀同三司を加え，未だ州に至らずして，黜けて征虜將軍と為し，家に於いて卒す。**太后**は**賈粲**を殺さんと欲し，**叉**の黨の多きを以て，內外を驚動するを恐れ，乃ち**粲**を出して濟州刺史と為し，尋いで追いて之を殺し，(9-053p) 其の家を籍沒す。唯だ**叉**は妹の夫なるを以て，未だ誅を行うを忍びず。

●［遂に太后は元叉に死を賜る］是より先，給事黃門侍郎の**元順**は剛直を以て**叉**の意に忤い，以（続は出）て齊州刺史と為る。**太后**は征して還し，侍中と為す。**太后**に侍坐し，**叉**の妻は**太后**の側に在り，**順**は之を指して曰く、

「**陛下**は奈何して一妹之故を以て，**元叉**之罪を正さず，天下をして其の冤憤を伸ばすを得ざら使む！」

太后は嘿然とす。**順**は，**澄**之子也。它日，**太后**は從容として侍臣に謂って曰く、

「**劉騰**、**元叉**は昔**朕**を邀えて鐵券を求め，死せざるを得んことを冀い，**朕**は賴(さいわ)いに與えず。」

韓子熙は曰く、

「事は生殺に關す，豈に鐵券に系わらんや！且つ**陛下**は昔與えずと雖も，何ぞ今日に殺さざるを解せん！」

太后は憮然とす。未だ幾くもなくして，

「**叉**及び弟の**瓜**は六鎮の降戶を誘いて定州に於いて反かんと謀る。又た魯陽（河南省河洛道魯山県、現・平頂山市魯山県）の諸蠻を招きて伊闕（河南省河洛道洛陽県の南、現・洛陽市洛竜区）を侵擾し，內應を為さんと欲す。」

と告げる有り。其の手書を得，**太后**は猶ほ未だ之を殺すに忍びず。群臣は固く執りて已まず，**魏主**も亦た以て言を為す，**太后**は乃ち之に從い，**叉**及び弟の**瓜**に家に於いて死を賜い，猶ほ**叉**に驃騎大將軍、儀同三司、尚書令を贈る。江陽王の**繼**は家に於いて廢され，病して卒す。前幽州刺史の**盧同**は**叉**の黨に坐して除名される。

●［剛直な元順は太后に諫言］**太后**は頗る妝飾を事とし，數々出でて遊幸し，**元順**は面のあたりに諫めて曰く、

「《禮》に，婦人は夫沒すれば自ら未亡人と稱し，首に珠玉を去り，衣に文采せずと。**陛下**は母として天下に臨み，年は不惑に垂々とするに，修飾は過ぎること甚しく，何を以てか後世に儀型（続は儀刑）せんや！」

太后は慚じ而して宮に還り，**順**を召し，之を責めて曰く

「千里相い征するは，豈に衆中に辱めらるを欲せん邪！」

順は曰く、

「**陛下**は天下之笑いを畏れず，而して臣之一言を恥じる乎！」

順は**穆紹**と同じく直し，**順**は醉いに因りて，其の寢所に入り，**紹**は被を擁して而して起ち，正色して**順**を讓めて曰く

「身は二十年侍中たり，卿と先君と亟々(しばしば)職事を連ね，縱(たと)え卿が方に進用せられるとも，何の宜しく相い排突すべけん也！」

遂に事を謝して家に還り，詔諭すること之久しく，乃ち起つ。

●［太后内寵の鄭儼と働き者の徐紇］初め，**鄭羲之**兄の孫の**儼**は司徒の**胡國珍**の行參軍と為り，私(ひそか)に幸を**太后**に得，人は未だ之を知らず。**蕭寶寅**が西討するや，**儼**を以て開府屬（開府に掾あり屬あり）と為す。**太后**は再び攝政し，**儼**は請いて使いを奉じて朝に還る，**太后**は之を留め，諫議大夫、中書舍人に拜し，嘗食

典御を領し，禁中に晝夜せしむ。休沐する毎に，**太后**は常に宦者を遣わして之に隨わしめ，**儼**は其の妻を見，唯だ家事を言うを得る而して已む。中書舍人の樂安の**徐紇**は，粗(ほ)ぼ文學有り，先に**趙修**（罪を得るは 145 巻天監二年にあり）に謁事するを以て，坐して枹罕に徙される。後に還り，復た中書舍人に除せられ，又た清河王の**懌**に諂事す。**懌**は死して，出でて雁門太守と為る。洛に還り，復た**元叉**に諂事す。**叉**は敗れるも，**太后**は**紇**が**懌**の厚くする所と為るを以て，復た召して中書舍人と為す，**紇**は又た**鄭儼**に諂事す。**儼**は**紇**の智數有るを以て，仗りて謀主と為す。**紇**は**儼**が內寵有るを以て，身を傾けて承接し，(9-054p) 共に相い表裡し，勢いは內外を傾く，號して「徐鄭」と為す。**儼**は累遷して中書令、車騎將軍に至る。**紇**は累遷して給事黃門侍郎に至り，仍ほ舍人を領し，中書、門下之事を總攝し，軍國の詔令は之に由らざるは莫し。**紇**は機辯強力有り，終日事を治め，略ぼ休息すること無く，以て勞と為さず。時に急詔令有れば、數吏は執筆し，或は行き或は臥（臣×）し，人ごとに別に之を佔（口占、口授する）し，造次に俱に成り，事理を失わず。然れども經國の大體無く，專ら小數を好み，人を見るに矯めて恭謹を為す，遠近は輻湊して之に附く。

●<u>［太后側近の李神軌の求婚騒動］</u>給事黃門侍郎の**袁翻**、**李神軌**は皆な中書舍人を領し，**太后**の信任する所と為り，時の人は云う、

「**神軌**も亦た幸を**太后**に得る」

と，衆は能く明らかにする莫き也。**神軌**は散騎常侍の**盧義僖**に求婚し，**義僖**は許さず。黃門侍郎の**王誦**は**義僖**に謂って曰く、

「昔人は一女を以て衆男に易えず，卿は豈に之に易える邪！」

義僖は曰く、

「從わざる所以は，正に此が為なる耳。之に從えば，恐らくは禍いは大に而して速かならん。」

誦は乃ち堅く**義僖**の手を握りて曰く、

「我は命有るを聞けども，敢えて以て人に告げず。」

女は遂に他族に適う。婚に臨む之夕に，**太后**は中使を遣わして敕を宣して之を停め，內外は惶怖し，**義僖**は夷然として自若たり。**神軌**は，**崇**之子、**義僖**は，**度世**之孫也。

●<u>［驍將崔延伯は戦死、賊盛んなる伝わらず］</u>**胡琛**は高平に據り，其の大將の**万俟丑奴**、**宿勤明達**等を遣わして魏の涇州を寇し，將軍の**盧祖遷**、**伊甕生**は之を討つも，克たず。**蕭寶寅**、**崔延伯**は既に**莫折天生**を破り，兵を引いて**祖遷**等に安定に會す，甲卒十二萬，鐵馬八千，軍威は甚だ盛んなり。**丑奴**は安定の西北七里に軍し，時に輕騎を以て挑戰す。大兵は未だ交わらず，輒ち委てて走る。**延伯**は其の勇を恃み，且つ新たに功有り，遂に議を唱えて先驅と為り之を擊つ。別に大盾を造り，內に鎖柱を為り，壯士をして負い而して趨か使め，之を排城と謂う，輜重を中に置き，戰士は外に在り，安定の北より原に緣いて北上す。將に戰わんとし，賊數百騎有り、詐りて文書を持ち，

「是れ降簿なり」

雲い，且つ師を緩めるを乞う。**寶寅**、**延伯**は未だ閲視に及ばず，**宿勤明達**は兵を引いて東北より至り，降賊は西より競いて下り，覆背（或本に腹背に作る）にして之を擊つ。**延伯**は馬に上りて奮擊し，北(に)げるを逐い徑(ただち)に其の營に抵る。賊は皆な輕騎にして，**延伯**の軍は步卒を雜え，戰うこと久しくして疲乏し，賊は間に乘りて排城に入るを得たり。**延伯**は遂に大敗し，死傷は二萬人に近く，**寶寅**は衆を收めて退きて安定を保つ。**延伯**は自ら其の敗れるを恥じ，乃ち甲兵を繕い，驍勇を募り，復た安定より西進し，賊（安定の西彭阮に屯す）を去ること七里（魏書崔延伯傳には七十里）にして營を結ぶ。壬辰（28-11+1=１８日），**寶寅**に告げず

して，獨り出でて賊を襲い，大いに之を破り，俄頃にして，其の數柵を平らぐ。賊は軍士の采掠し散亂せらるるを見，復た還りて之を擊ち，魏兵は大敗し，**延伯**は流矢に中たりて卒し，士卒の死する者は萬餘人なり。時に大寇は未だ平らがず，復た驍將を失い，朝野は之が為に憂恐す。是に於いて賊勢は愈々盛んなり，而して群臣の（9-055p）外より來たる者は，**太后**が之に問えば，皆な賊は弱しと言い，以て悅媚を求め，是に由りて將帥の兵を益すを求める者は往往にして與えず。

■［**裴邃は卒す**］五月，夷陵の烈侯の**裴邃**は卒す（軍中に没す）。**邃**は沉深にして思略有り，為政は寬明なり，將吏は愛し而して之を憚る。壬子（48-41+1=８日），中護軍の**夏侯但**を以て壽陽の諸軍事を督さしめ，驛を馳せて**邃**に代わらしむ。

■［**梁魏の益州の戰い**］益州刺史の臨汝侯の**淵猷**は其の將の**樊文熾**、**蕭世澄**等を遣わし，兵を將いて、魏の益州長史の**和安**を小劍に圍み，魏の益州刺史の**邴虯**（へいきゅう）は統軍の河南の**胡小虎**、**崔珍寶**を遣わして兵を將いて之を救わしむ。**文熾**は襲いて其の柵を破り，皆な之を擒とし，**小虎**をして城下に**和安**を說か使め、早く降ら令む。**小虎**は遙に**安**に謂って曰く、

「我が柵は備えを失い，賊の擒とする所と為り，其の兵力を觀るに，殊に言うに足らず。努力して堅く守れ。**魏**行台（魏子建）、**傅**梁州（傅竪眼）の援兵は已に至れり。」

語りて未だ終わらず，軍士は刀を以て之を毆殺す。西南道の軍司の**淳於誕**は兵を引いて小劍を救い，**文熾**は柵を龍鬚山上に置き以て歸路を防ぐ。戊辰（4+60-41+1=２４日），**誕**は密に壯士を募りて夜山を登りて其の柵を燒かしめ，梁軍は歸路の絕えるを望見して，皆な恟懼す。**誕**は乘じ而して之を擊ち，**文熾**は大敗し，**僅**は身を以て免る。**世澄**等將吏十一人を虜とし，斬獲は萬を計える。**魏子建**は**世澄**を以て**胡小虎**之屍を購い，得て而して之を葬す。

●魏の魏昌（中山郡の県、直隸省保定道定県、現・定州市）の武康伯の**李崇**は卒す。

【豫章王綜は魏に亡命】

■［**豫章王の綜の出生の秘密**］初め，**帝**は齊の東昏侯の寵姬の**吳淑媛**（女官の九嬪の一つ）を納れる，七月に而して豫章王の**綜**を生み，宮中は多く之を疑う。**淑媛**の寵の衰えるに及びて怨望し，密に**綜**に謂って曰く、

「汝は七月の生兒なり，安んぞ諸皇子に比するを得んや！然れども汝は**太子**の次弟にして，幸いにも富貴を保つ，洩らす勿かれ也！」

綜と相い抱き而して泣く。**綜**は是に由り自ら疑い，晝は則ち談虐すること常の如く，夜は則ち靜室に於いて戶を閉め，髮を披（ひら）き稿（續は藁）を席（し）き，私に別室に於いて**齊氏**の七廟を祭る。又た微服して曲阿に至り齊の**太宗**（齊に太宗無し、高宗の誤りか）の陵を拜し，俗說に、

「血を割き骨に瀝（そそ）ぐに，滲（にじ）むときは則ち父子為り」

と聞き，遂に潛に**東昏侯**の塚を發き，並せて自ら一男を殺して之を試すに，皆な驗あり。是に由りて常に異志を懷き，專ら時變を伺う。**綜**は勇力有り，能く手で奔馬を制す。財を輕んじ士を好み，唯だ身に附けるの故衣を留め，餘は皆な分けて施し，恆に罄乏（空しくとぼしい）を致す。屢々便宜を上り，邊任と為るを求め，**上**は未だ之を許さず。常に內齋に於いて沙を地に布き，終日跣行し，足下は胝（たこ）を生じ，日に能く三百里を行く。王、侯、妃、主及び外人は皆な其の志を知り，而れども**上**は性嚴重にして，人は敢えて言う莫し。又た使いして**蕭寶寅**に通問し，之を叔父と謂う。南兗州刺史と為るや，賓客を見ず，辭訟は簾を隔てて之を聽き，出でては則ち帷を輿に垂れ，人が其の面を識るを惡む。

●［彭城から亡命の仕掛け］彭城に在るに及び，魏の安豐王の**延明**、臨淮王の彧は兵二萬を將いて彭城に逼り，勝負は久しく未だ決せず。(9-056p) **上**は**綜**の敗沒を慮り，**綜**に敕して軍を引きて還らしむ。**綜**は南歸して復た北邊に至るを得ざるを恐れ，乃ち密に人を遣わして降款を**彧**に送らしむ。魏人は皆な之を信じず，**彧**は人募りて**綜**の軍に入り其の虛實を驗せしめんとし，敢えて行く者無し。殿中侍御史の濟陰の**鹿悆**は**彧**の監軍為り，行くを請い，曰く、

「若し**綜**に誠心有れば，之と盟約せん。如し其の詐りなる也，何ぞ一夫を惜しまん！」

時に兩敵は相い對し，內外は嚴固なり，單騎にして間出し，逕に彭城に趣き，**綜**軍の執る所と為る。其の來狀を問う。**悆**（彧×）は曰く

「臨淮王は我を來たら使む，交易する有らんを欲する耳。」

時に**元略**は已に南に還り，**綜**は之を聞き，**成景俊**等に謂って曰く、

「我は常に**元略**が城に反せんと欲するを規るを疑う，將に其の虛實を驗せんとし，故に左右を遣わして**略**の使いと為し，魏の軍中に入り，彼の一人を呼ぶ。今（令×）其の人果たして來たり，人を遣わし詐りて**略**が疾有りて深室に在ると為し，呼びて戶外に至らしめ，人をして傳言して之を謝せ令む可し。」

綜は又た腹心の安定の**梁話**を遣わして**悆**を迎え，密に意狀（意とは綜が降らんと欲すとの意を伝える、狀とは告げるに成景俊と謀を設けるの狀を以てす）を以て之に語らしむ。**悆**は薄暮に城に入る，先ず引きて**胡龍牙**を見しめ，**龍牙**は曰く、

「**元中山**（元略は梁に入りて中山王と為す）は甚だ相い見んと欲す，故に遣（続は欠如）わして卿を呼ばしむ。」

又た曰く

「安豐、臨淮は，少弱卒を將いて，此の城を復せんと規る，得可きを容れん乎！」

悆は曰く、

「彭城は，魏之東鄙なり，勢いは必ず爭うに在り，得ると否とは天に在り，人の測る所に非ず。」

龍牙は曰く、

「當に卿の言の如し。」

又た引きて**成景俊**を見しむ，**景俊**は輿に坐し，謂って曰く、

「卿は刺客と為らず邪！」

悆は曰く、

「今者使いを奉じ，本朝に返命（復命）せんと欲す。相い刺す之事は，更に後圖をトす。」

景俊は為に飲食を設け，乃ち引いて一所に至り，詐りて一人をして室中より出で令め，**元略**と為し意を致して曰く、

「我は昔以（ゆえ）有りて南に向い，且く遣わして相い呼び，鄉事を聞かんと欲す。晚來疾作り，相い見るを獲ず。」

悆は曰く、

「早に音旨を奉じ，冒險して祗（つつし）みて赴き，瞻見するを得ず，內に反側を懷く。」

遂に辭して退く。諸將は競いて魏の士馬の多少を問い，**悆**は盛んに陳ぶ、

「勁兵は數十萬有り。」

諸將は相い謂って曰く、

「此れ華辭なる耳！」

悆は曰く、

「崇朝（終朝）にして驗ず可し，何の華か之れ有らん！」
乃ち**愈**を遣りて還す。**景俊**は之を戲馬台（彭城の南）に送り，北のかた城塹を望み，謂って曰く、
「險固なるは此くの如し，豈に魏の能く取る所とならんや！」
愈は曰く、
「攻守は人に在り，何ぞ險固を論じん！」
愈は還り，路に於いて復た**梁話**と盟約を申固す。六月，庚辰（16-10+1=７日），**綜**は**梁話**及び淮陰の**苗文寵**と夜出で，歩いて**彧**軍に投じる。旦に及び，齋内の諸閣は猶ほ閉じて開かず，衆は所以を知る莫し，唯だ城外に魏の軍の呼ぶを見る、曰く、
「汝の豫章王は昨夜已來，我が軍中に在り，汝は尚ほ何をか為すや！」
城中は王を求めて獲ず，軍は遂に大いに潰ゆ。魏人は彭城に入り，勝ちに乗りて梁兵を追撃し，復た諸城を取る，**(9-057p)**宿豫に至り而して還る。將佐士卒の死沒する者は什に七八，唯だ**陳慶之**は所部を帥いて還るを得る。
■［蕭衍は驚愕す］**上**は之を聞き，驚駭し，有司は奏して**綜**の爵士を削り，屬籍を絕ち，其の子の**直**の姓を**悖氏**と更める。未だ旬日ならずして，詔して屬籍を復し，**直**を封じて永新侯と為す。
■［蕭衍は寛容すぎて正徳も許す］西豐侯の**正徳**は魏より還り（前巻三年にあり），志行は悛（あらた）める無し，多く亡命を聚め，夜道に剽掠殺人（続は欠如）し，輕車將軍を以て**綜**の北伐に從い，軍を棄てて輒ち還る。**上**は其の前後の罪惡を積み，免官して爵を削り，臨海に徙す。未だ至らずして，追いて之を赦す。
●［服喪三年の綜と側近は優遇］**綜**は洛陽に至り，**魏主**に見え，還りて館に就き，齊の**東昏侯**の為に哀を舉げ，斬衰を服すること三年。**太后**以下は並びて館に就きて之を弔（とむら）（続は弔）い，賞賜禮遇すること甚だ厚く，司空に拜し，高平郡公、丹陽王に封じ，名を**贊**と更める。**苗文寵**、**梁話**を以て皆な光祿大夫と為す。**鹿愈**を封じて定陶の縣子と為し，員外散騎常侍に除す。
●［江革は節を通す］**綜**の長史の濟陽の**江革**、司馬の范陽の**祖**[口恆]（口偏に恒の字）**之**は皆な魏の虜とする所と為り，安豐王の**延明**は其の才名を聞き，厚く之を遇す。**革**は足疾と稱して拜せず。**延明**は[口恆]**之**をして《欹器漏刻の銘》を作り使め，**革**は[口恆]**之**を唾罵して曰く、
「卿は國の厚恩を荷ない，乃ち虜の為に銘を立て，朝廷に孤負す！」
延明は之を聞き，**革**をして《大小寺（南史には丈八寺に作る、昌に之に從うべし。蓋し傳寫の誤なり）の碑》、《**彭祖**（彭城は大彭氏の墟なり、故に之を祭る）を祭る文》を作ら令め，**革**は辭して為らず。**延明**は將に之を棰（むちう）たんとし，**革**は色を厲して曰く、
「**江革**は行年六十なり，今日死するを得れば幸と為す，誓って人の為に筆を執らず！」
延明は屈す可からざるを知り，乃ち止む。日々に脫粟（続は脫粟飯）三升を給し，僅に其の生を全くし而して已む。
■**上**は密に**夏侯但**を召して還らしめ，兵を合肥に休ま使め，淮堰の成るを俟ちて復た進まんとす。
●癸未（19-10+1=１０日），魏は大赦し，改元して孝昌とする。

【破六韓拔陵は北方席巻】

●［雲中の費穆も敗北］**破六韓拔陵**は魏の廣陽王の**深**を五原に圍み，軍主の**賀拔勝**は二百人を募りて東門を開きて出でて戰い，斬首すること百餘級，賊は稍く退く。**深**は軍を抜きて明州に向かい，**勝**は常に殿（しんがり）と為る。雲州刺史の**費穆**は，離散を招撫し，四面に敵を拒ぐ。時に北境の州鎮は皆な沒し，唯だ雲中（去

年に李宗は費穆をして守るらしむ）の一城のみ獨り存す。之久しく，道路は阻絕し，援軍は至らず，糧仗は俱に盡き，**穆**は城を棄てて南して**爾朱榮**に秀容に奔る。既に而して闕に詣りて罪を請い，詔して之を原す。

●[乜列河を餌とするに失敗]長流參軍（禁防を司る、從公府に置く、小府には禁防參軍を置く）の**於謹**は廣陽王の**深**に言って曰く、

「今寇盜は蜂起し，未だ專ら武力を用いて勝つは易からざる也。謹しみて請う、**大王**之威命を奉じ，諭じるに禍福を以てし，庶幾くは稍離す可き也。」

深は之を許す。**謹**は諸國の語に兼ねて通じ，乃ち單騎にして叛胡の營に詣り，其の酋長を見，恩信を開示し，是に於いて西部の鐵勒の酋長の**乜列河**等は三萬餘戶を將いて南に詣り**深**に降る。**深**は兵を引いて折敷嶺（通典には折敦嶺）に至り之を迎えんと欲し，**謹**は曰く、

「**破六韓拔陵**は兵勢は甚だ盛んなり，**乜列河**等が來降すと聞けば，（9-058p）必ず兵を引いて之を邀え，若し先ず險要に據れば，未だ敵し易からざる也。**乜列河**を以て之を餌とするに若かず，而して兵を伏せて以て之を待てば，必ず破る可き也。」

深は之に從い，**拔陵**は果たして兵を引いて**乜列河**を邀擊し，盡く其の衆を俘とす。伏兵は發し，**拔陵**は大いに敗り，復た**乜列河**之衆を得而して還る。

柔然●[降戶を国内に分處の失敗]柔然の**頭兵可汗**は**破六韓拔陵**を大破し，其の將の**孔雀**等を斬る。**拔陵**は柔然を避け，南に徙りて河（北河）を渡る。將軍の**李叔仁**は**拔陵**の稍く逼るを以て，援を廣陽王の**深**に求め，**深**は衆を帥いて之に赴く。賊の前後降附する者は二十萬人なり，**深**は行台の**元纂**と表して

「乞う恆州の北に於いて別に郡縣を立て，降戶を安置し，宜に隨いて賑賚し，其の亂心を息めん。」

魏朝は從わず，黃門侍郎の**楊昱**に詔して之を冀、定、瀛の三州に分處して食に就かしむ。**深**は**纂**に謂って曰く、

「此の輩は復た乞活（86 卷晉の惠帝の光熙元年にあり）と為らん矣。」

■秋，七月，壬戌（58-40+1=１９日），大赦す。

【魏の遼西・荊州方面でも叛乱】

●[遼西の杜洛周の叛乱]八月，魏の柔玄鎮の民の**杜洛周**は衆を聚めて上谷に於いて反し，改元して真王とす，郡縣を攻沒し，**高歡**、**蔡俊**、**尉景**及び**段榮**、安定の**彭樂**は皆な之に從う。**洛周**は魏の燕州刺史の博陵の**崔秉**を圍み，九月，丙辰（52-39+1=１４日），魏は幽州刺史の**常景**を以て尚書を兼ねしめて行台と為し，幽州都督の**元譚**と之を討つ。**景**は，爽之孫也。盧龍塞（遼西の肥如県にあり。直隷省津海道盧龍県、現・秦皇島市盧竜県）より軍都關（燕郡軍都県にあり、京兆昌平県、現・北京市昌平区）に至るまで，皆な兵を置いて險を守り，**譚**は居庸關（京兆昌平県西北、現・北京市昌平区、萬里の長城）に屯す。

●[吐谷渾は涼州を魏に復帰させる]冬，十月，吐谷渾は兵を遣わして**趙天安**を擊ち，**天安**は降り，涼州は復た（去年に趙天安は莫折念生に応じて挙兵）魏と為る。

■[高徽は吐谷渾により枹罕の防衛]平西將軍の**高徽**は使いを厭嗟（エフタル）に奉じ，還りて，枹罕に至る。會々河州刺史の**元祚**は卒し，前刺史の**梁釗之**の子の**景進**は**莫折念生**の兵を引いて其の城を圍む。長史の**元永**等は**徽**を推して州事を行わしめ，兵を勒して固く守る。**景進**も亦た自ら州事を行う。**徽**は兵を吐谷渾に請い，吐谷渾は之を救い，**景進**は敗走す。**徽**は，**湖**之孫也。

●[魏の群蠻の叛乱]魏は方に西北に事有り，二荊（西荊は上洛に治し、北荊は襄城に治す）、西郢（汝南の眞陽県に治す）の群蠻は皆な反し，三鴉（魯陽關、河南省汝陽道南召県の東北、河洛道魯山県の界、現・南陽市南召県）の路を斷ち，都

督を殺し，寇掠し，北して襄城・汝水に至る。**冉氏、向氏、田氏**（三姓はみな汝源に居る）有り，種落は最も盛んなり，其の餘の大なる者は萬家あり，小なる者は千室あり，各々王侯を稱し，險要に屯據し，道路は通じず。十二月，壬午（18-7+1=１２日），**魏主**は下詔して曰く、

「**朕**は將に親ら六師を御し，逋穢を掃蕩せんとす，今先ず荊蠻を討ち，南服を疆理せん。」

時に群蠻は梁將の**曹義宗**等を引いて魏の荊州（穰城に治す）を圍み，魏の都督の**崔暹**は兵數萬を將いて之を救い，魯陽に至り，敢えて進まず。魏は更に臨淮王の**彧**を以て征南大將軍と為し，兵を將いて魯陽蠻を討たしめ，司空の長史の**辛雄**を行台左丞と為し，東して葉城（襄州の治所、漢の南陽郡の葉城県、河南省汝陽道葉県、現・平頂山市葉県）に趣く。別に征虜將軍の**裴衍**、恆農太守の京兆の**王羆**を遣わして兵一萬を將いて，武關より出でて三鴉の路を通じ，以て荊州を救わしむ。**(9-059p)**

●［**魏主親征の噂で勝つ**］**衍**等は未だ至らず，**彧**の軍は已に汝上（汝水のほとり）に屯し，州郡の蠻寇を被る者は爭いて來たりて救いを請い，**彧**は處分道別なるを以て，之に應じるを欲せず。**辛雄**は曰く、

「今**裴衍**は未だ至らず，王の士衆は已に集まり，蠻左（宋以来豫部の諸蠻は、率ねこれを蠻左と謂う。置く所の蠻郡はこれを左郡という）は唐突し，近畿を撓亂し，王は麾を闔外に秉り，可を見て而して進む，何ぞ別道を論ぜん！」

彧は後に得失之責め有るを恐れ，**雄**に符（尚書行台の符）下らんことを邀（もと）める。**雄**は以えらく群蠻は**魏主**が將に自ら出でんと聞けば，心は必ず震動し，勢いに乘りて破るも可也と，遂に**彧**の軍に符し，速かに赴き擊た令む。群蠻は之を聞き，果たして散り走る。

●［**魏主親征に諫言**］**魏主**は自ら出でて賊を討たんと欲し，中書令の**袁翻**は諫め而して止む。**辛雄**は軍中より上疏して曰く、

「凡そ人の陳に臨みて身を忘れ，白刃に觸れ而して憚れざる所以の者は，一に榮名を求め，二に重賞を貪り，三に刑罰を畏れ，四に禍難を避けるなり。此の數者に非ざれば，**聖王**と雖も其の臣を使う能わず，慈父も其の子を厲ます能わず矣。**明主**は深く其の情を知り，故に賞は必ず行い，罰は必ず信に，親疏貴賤勇怯賢愚をして，鐘鼓之聲を聞き，旌旗之列を見，奮激して，競いて敵場に赴かざるもの莫から使む，豈に久しく生きるを懨（厭）い而して速かに死するを樂しまん哉？利害は前に懸（かか）り，罷めんと欲すれば能わざる耳。秦、隴は節に逆い，蠻左の常を亂れるより，已に數載を歷て，凡そ戎役に在るは數十萬人（続は欠如），三方（西は秦隴、北は邊鎮、南は蠻左）之師を扞御（守り防ぐ）し，敗多く勝ちは少なく，其の由る所を跡（たず）ねるに，皆な賞罰を明かにせざる之故也。**陛下**は明詔を降し，賞の時を移さずと雖も，然も將士之勳，歷稔（歷年）にして決せず，亡軍之卒は，晏然として家に在り，是れ節士をして勸慕する所無く，庸人をして畏懾する所無から使むなり。進み而して賊を擊てば，死交わり而して賞賜（たお）く，退き而して逃散し，身は全くし而して罪無し，此れ其の敵を望み奔沮し，肯えて盡力せざる所以の者也。**陛下**は誠に能く號令必ず信に，賞罰必ず行えば，則ち軍威は必ず張り，盜賊は必ず息まん矣。」

疏奏すれども，省みず。

■［**順陽・馬圈の攻防戦**］**曹義宗**等は魏の順陽、馬圈を取り，**裴衍**等と淅陽（漢の弘農郡に析県あり、晉は分けて順陽郡に属す。元魏は淅陽郡を置く、淅水の陽にある。河南省汝陽道内郷県、現・南陽市内郷県）に戰い，**義宗**等は敗退す。**衍**等は復た順陽を取り，進みて馬圈を圍む。洛州刺史の**董紹**は馬圈の城堅く，**衍**等の糧少なきを以て，上書して其の必ず敗れんことを言う。未だ幾くもなくして，**義宗**は**衍**等を擊ち，之を破り，復た順陽を取る。魏は**王羆**を以て荊州刺史と為す。

■邵陵王の**綸**は南徐州の事を攝し，州に在りて喜怒は恆ならず，肆（ほしいまま）に非法を行う。市裡を遨遊（ごうゆう）し，［魚旦（たん）］（鱣、ごまめ、海蛇）を賣る者に問いて曰く、

「刺史は何如？」
對えて言く、
「躁虐なり。」
綸は怒り，[魚旦]を呑ま令め而して死す。百姓は惶駭し，道路は目を以てす（道路に逢う者は目配せして謂わず）。嘗て喪車に逢い，孝子の服を奪い而して之を著て，匍匐（ほふく）して號叫す。僉帥（せんすい）は罪を懼れ，密に以て聞す。**上**は始めて嚴責するも，**綸**は改める能わず，是に於いて代を遣わす。**綸**は悖慢すること逾々甚しく(9-060p)，乃ち一老公の短瘦にして**上**に類する者を取り，加えるに衮冕を以てし，之を高坐に置き，朝して以て君と為し，自ら無罪を陳す。坐に就きて剝褫（はくち）（剝ぎ取る）せ使め，之を庭に捶（むちう）つ。又た新棺を作り，司馬の**崔會意**を貯え，輴車（葬送車）輓歌（葬家の楽、読経）を以て送葬之法を為し，嫗をして乗車して悲號せ使む。**會意**は堪える能わず，輕騎にして都に還り以て聞す。**上**は其の奔逸を恐れ，禁兵を以て之を取る，將に獄に於いて盡（死）を賜わらんとし，**太子**の**統**は流涕して固く諫め，免かるるを得，戊子（24-7+1=１８日），**綸**の官を免じ，爵土を削る。
●魏の山胡（汾州の稽胡）の**劉蠡升**（りゅうれいしょう）は反し，**天子**を自稱し，百官を置く。
●<u>[斛律金は独特の嗅覚で杜洛周に乗換える]</u>初め，敕勒の酋長の**斛律金**（ごくりつきん）は懷朔鎮の將の**楊鈞**に事えて軍主と為り，兵を行うに匈奴の法を用い，塵を望みて馬歩の多少を知り，地を嗅いで軍の遠近を知る。**破六韓拔陵**の反するに及び，**金**は衆を擁して之に歸し，**拔陵**は**金**を署して王と為す。既に而して**拔陵**が終に成す所無きを知り，乃ち雲州に詣りて降る。仍って稍く其の衆を引いて南に黄瓜堆（山西省雁門道山陰県の北、現・朔州市山陰県）に出で，**杜洛周**の破る所と為り，身を脱して**爾朱榮**に歸し，**榮**は以て別將と為す。

令和 4 年 12 月 1 日　　翻訳開始　　11720 文字
令和 4 年 12 月 10 日　　翻訳終了　　24703 文字